



平成 21 年 9 月 29 日

各 位

会社名 イズミヤ株式会社
代表者名 代表取締役社長 坂田 俊博
(コード番号 8266 東証、大証第1部)
問合せ先 取締役上席執行役員 秘書・広報室長
田中 博和
(TEL. 06-6657-3310)

業績予想の修正および特別損失に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、平成 21 年 4 月 8 日に公表しました業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。また、併せて特別損失についてお知らせいたします。

記

1. 連結業績予想数値の修正

(単位：百万円)

(1) 平成 22 年 2 月期 第 2 四半期連結累計期間(平成 21 年 3 月 1 日～平成 21 年 8 月 31 日)

	営業収益	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	192,000	2,700	2,000	300	3.72
今回発表予想 (B)	186,650	330	△280	△5,310	△65.88
増減額 (B-A)	△5,350	△2,370	△2,280	△5,610	
増減率 (%)	△2.8	△87.8	—	—	
(ご参考) 前中間期実績	189,884	3,281	2,741	1,036	12.19

(2) 平成 22 年 2 月期 通期(平成 21 年 3 月 1 日～平成 22 年 2 月 28 日)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	387,000	5,400	4,200	1,000	12.41
今回発表予想 (B)	375,000	2,700	1,400	△5,300	△65.76
増減額 (B-A)	△12,000	△2,700	△2,800	△6,300	
増減率 (%)	△3.1	△50.0	△66.7	—	
(ご参考) 前期実績	381,131	5,339	4,189	965	11.50

2. 個別業績予想数値の修正

(単位：百万円)

(1) 平成22年2月期 第2四半期累計期間(平成21年3月1日～平成21年8月31日)

	営業収益	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	168,000	1,500	1,300	100	1.24
今回発表予想 (B)	162,880	△650	△720	△4,920	△61.04
増減額 (B-A)	△5,120	△2,150	△2,020	△5,020	
増減率 (%)	△3.0	—	—	—	
(ご参考) 前中間実績	168,712	1,752	1,671	754	8.88

(2) 平成22年2月期 通期(平成21年3月1日～平成22年2月28日)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	339,000	2,900	2,200	300	3.72
今回発表予想 (B)	328,000	850	200	△5,200	△64.52
増減額 (B-A)	△11,000	△2,050	△2,000	△5,500	
増減率 (%)	△3.2	△70.7	△90.9	—	
(ご参考) 前期実績	337,182	2,761	2,174	338	4.04

3. 業績予想修正の理由

当第2四半期連結累計期間は、雇用・所得環境の悪化による消費者の節約志向、小売業における価格競争の激化、梅雨の長期化等の天候不順により、売上高は大幅に計画を下回りました。また、営業費用につきましては当初計画していたコスト削減は実現したものの、想定以上の売上減をカバーすることはできませんでした。このような状況を踏まえ、今後の損益改善のための費用構造改革の一環として、赤字店舗を閉鎖することとし、その損失に対応して引当金を計上いたします。それらの結果、当第2四半期連結累計期間の連結及び個別の業績予想を修正いたします。

また、通期見通しについては、第3四半期以降も経済環境は厳しいものと予想され収益水準を見直すものの、新ブランド「Style ONE」の展開を含めたPB開発による荒利率の改善や、グループ各社も含めた費用構造改革により経常利益黒字化に向けた施策を実施します。これらの取り組みを踏まえ、通期の連結及び個別の業績予想についても修正いたします。

4. 特別損失の発生について

当第2四半期において、固定資産の減損損失として連結で1,851百万円、個別で1,765百万円を特別損失に計上いたします。また、今後の損益改善に向けた抜本的な費用構造改革の一環として、赤字店舗の閉鎖を進めるために店舗閉鎖損失引当金3,600百万円を連結及び個別で特別損失として計上いたします。

この他、第1四半期において、たな卸資産評価損として連結で1,560百万円、個別で1,298百万円、固定資産の減損損失として連結で59百万円を特別損失に計上いたしております。

なお、これらの特別損失については、上記の連結及び個別の業績予想の修正に織り込んでおります。

※上記の予想は、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上